○会長挨拶

日本ロータリーEクラブ２６５０が大和高田・敦賀・大津東・福井北各RCのスポンサーによりインターネットクラブとして、刀根荘兵衛　特別代表、チャーターメンバー３８人で設立され、本年５周年を迎えて世界では５３国・地域で２７３クラブに、日本では１１クラブに成り、国内のEクラブがお互いに課題等を共有し、解決していける様な機会を持ちたいと思い、創立５周年記念事業としてフォーラム開催を計画された。

○基調講演

【「Eクラブの経緯と今後の展望」　　ガバナーエレクト　刀根荘兵衛】

国際ロータリー会員が激減した際に会員増強の一つとしてインターネットクラブが作られた。

《日本ロータリーEクラブ２６５０設立経過》

2010年4月　RI規定審議会の結果を受けてEクラブ設立を検討して

　　　 7月　栗田ガバナー（当時）の了解を得て、地区内４府県でスポンサークラブと打診され

　　　12月　大和高田RC（奈良県）、敦賀RC（福井県）、大津東RC（滋賀県）３RCが

スポンサークラブ

《Eクラブを設立した私たちの思い》

◆　いい加減なクラブが出来ると大変

◆　私たちが模範となるEクラブを作る

◆　ロータリーに新しい風を吹き込む

◆　変化を常に前向きにとらえる

◆　会員基盤を強化する（会員の多様性）

◆　インターネットでもロータリーは出来る（ロータリー源流の会での経験）

《創立５周年を迎え》

日本ロータリーEクラブ２６５０が創立５周年を迎え、今年度、K,R,ラベンドランRI会長は、「世界へのプレゼントになろう」というテーマを掲げていらっしゃって、何か一つでも小さいプレゼントを自分から外へ発信する事を心がける活動し、会員の皆さんがEクラブとしての誇りをそれぞれに持ち、会員同士より一層の親睦を図り、外部への情報発信を強化させて「真のロータリーとは如何に有るべきか」を追求する。

《従来のEクラブの定義》

ロータリーEクラブは、直接顔を合わさせるよりも、主にインターネット上で例会を開く。（RI細則第１条）

Eクラブは、通常のロータリークラブと同様に、奉仕プロジェクト、募金行事、親睦の活動に取り組み、RIの加盟

会員としてのすべての権利、特権、義務を有する。

《インターネットの先駆者として》

☆他のクラブの追従を許さない変革を続ける

☆IOT(Internet of Things)を意識

☆スマホなど通信機器は進化する

☆インターネットだけではなくなる

☆もっと新しい形態のロータリーも現れる

【チャレンジ精神「モルモット精神」（ソニー）】

井深は「ソニー・モルモット論」に対し、「私どもの電子工業では常に新しい事を、どのように製品に結び付けていくかという事が、一つの大きな仕事であり、常に変化していくものを追いかけていくというのは、当たり前である。決まった仕事を、決まった様にやるという事は、時代遅れと考えなくてはならない。ゼロから出発して、産業と成りうるものが、いくらでも転がっているのだ。これはつまり商品化に対するモルモット精神を上手に生かしていけば、いくらでも新しい仕事が出来ていくという事だ。

《クラブの仲間同士の絆づくり　－　Fellowship》

☆一杯飲んで交流するよりも、まず一つの目標に向かって「共に汗を流す事」

☆絆は「高い目標に向かって一緒に苦労した時」に、はじめて結ばれる。

☆ともに力を出し合って、ともに苦労をすれば自ずと心は通じ合います。

☆本当の『ロータリーのフェローシップ』です。

《クラブの将来を考える》

それぞれのクラブの夢や希望を語り合い、クラブの未来を作っていくことが大切。

長期計画、ビジョンを策定して戴きたい。

【新しい夢を見よう“To dream a new doeam”（ロータリー財団管理委員会　1990年6月）】

【ロータリーの夢を追いかけよう“Follow your Rotary Dream”（1998-99L.レイシー会長）】